

# 国立・国定公園総点検事業の実施状況について

背景

## 国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言（平成19年3月）

< 指定に関する提言 >

- 自然公園の今日的意義と今後の方向性等を踏まえ、国立・国定公園の指定状況の評価・見直し、新規指定に向けた検討、自然公園選定要領の見直しを行う。
- 特に下記のような対象について、すぐれた自然の風景地として評価を進める。

優れた自然の風景地の評価の多様化への対応

（照葉樹林、里地里山、海域、特徴的な湿地、特徴的な地形・地質、自然現象）

生物多様性の豊かな地域の評価

生態系ネットワークへの貢献

自然体験型利用への対応

国立・国定公園総点検事業（平成19～23年度）

平成19年度

- 我が国の自然の風景地を代表する地域の新しい評価方法の検討

平成20年度

- 国立・国定公園の役割分担、選定要件（規模、自然性等）の見直し

- 新規指定候補地等において区域を具体的に抽出する際の調査項目・手法、評価方法、作業手順の整理

平成21年度以降

自然公園選定要領の改訂  
（昭和46年）

国立公園基本調査標準の改訂  
（昭和28年）

国立・国定公園の再編・再配置、新規指定

## 平成19年度の実施内容

### 我が国の自然の風景地を代表する地域の新しい評価方法の検討

現行：「地形」を基に代表的な自然風景地を抽出し、植生（地被）等は景観要素の一つとして評価。



「地形」と「生態系」の両方の観点から我が国の自然の風景地として  
代表性のある地域を抽出。

#### 地形

- 最新の科学的知見を踏まえ、日本列島を地形の形成史を踏まえた大地形区分に整理。  
（東北日本弧、西南日本弧など）
- 我が国に見られる典型的な地形を分かりやすく分類。  
（火山孤峰、リアス式海岸など）
- 各地形について規模が上位のもの等を抽出。



#### 生態系

- 生物地理区分ごとに典型的に見られる生態系  
（重要地域A）
- 特異な環境要因によって成立する生態系  
（重要地域B、重要湿地500の基準）
- これらのうち、規模が上位のもの等を抽出。

### 抽出された地域と国立・国定公園との重複状況を確認

#### <地形>

- 例えば、利尻礼文サロベツ国立公園や秩父多摩甲斐国立公園はプレートの衝突帯に位置し、地形の形成史を反映した典型的な地域として抽出された。
- 典型的な地形が見られる地域の多くが既に国立・国定公園として指定されていることが確認された。

#### <生態系>

- 国立公園は生態系の観点から抽出された地域をいずれも含んでおり、生物多様性の屋台骨として役割を果たしていることが明らかとなった。